

新冠にまつわるお話しを集めた 新冠百話

第五十八話

「御料牧場と

帰農期成同盟入植者（語り）」

（要約文）

戦後間もない頃、御料牧場は帝室林野局新冠出張所という名称でした。当時は、御料牧場においても食べるものが何もなく、みんな話合い、御料牧場を解放して開拓を進めようと運動を起したのです。まず食べるものをつくるということが何よりも先決でした。

牧場解放を求める団体は、帰農期成同盟という団体です。芳住さんに委員長をやっていた、だきました。御料牧場時代の芳住さんは、病気の馬を診る「技手」という役職でした。その他、牧場の畑を担当する係の人や庶務の仕事をしてきた人達がいました。牧場職員の服装は、正装の時は黒い服に詰襟ボタン、警察でかぶるような帽子、短剣を下げていました。庶務の職員は事務所で仕事をしていましたが、現場を見回す時は馬に乗って回っていました。大富には牧場の小作人がいました。戦後は、このような人達の多くが同盟に加わり、解放運動を行ったのです。

本場から引き揚げた人は、住むところがないから牧場の建物を使っていました。緑丘で診療所を開いていた矢澤先生は、しばらく牧場の建物で活動を行っていました。

大富や万世地区には御料牧場の関係者が入っていますが、アイヌの人も平取の上貫気別から帰ってきて入地しています。ここはもともとアイヌの土地だったけれど、上貫気別に追われたので、運動に加わったのです。

解放したばかりの時は、土地の割り当てがなかったのです、仮割り当てで一年間経過してから、同盟の委員長、アイヌ協会、村長が話し合って決めたと思います。その後、抽選で正式に土地が決まりました。当時は、御料牧場関係の人達だっただけで裸一貫で入植したようなものだから大変だったと思います。終戦間もない時期で、何せ食べ物がないのですから、みんなで団結したということです。御料関係者だからといって特別待遇はなく、皆と一緒にしました。私達はまだ若かったから何とか我慢できたけど、年をとっている人は家族も多いし、とても苦労したと思いますよ。



昭和の初め頃から生きているという、万世の「ふるさとの木 アカマツ」。

御料牧場時代や戦後における牧場解放、そして開拓といった地域の激動を見守ってきた。

～海・山・川 ルールを守って みな笑顔～

事故が無く楽しいレジャーを過ごしましょう。

消防署新冠支署

火災・救急出動状況 () かつこ内は前年同期			
区分	火災件数	救急件数	
6月	0件 (1件)	28件 (31件)	
5年1～6月	3件 (6件)	167件 (173件)	
交通事故発生状況 () かつこ内は前年同期			
区分	発生件数	死者	傷者
6月	0件 (1件)	0人 (0人)	0人 (2人)
5年1～6月	1件 (5件)	0人 (0人)	1人 (8人)

人のうごき

(6月末現在)

人口	5,172人	(前月比 - 4人)
男	2,574人	(前月比 - 9人)
女	2,598人	(前月比 + 5人)
世帯	2,814世帯	(前月比 - 3世帯)

戸籍の窓

5月21日～6月20日までの届出分 (敬称略)

●お誕生おめでとうございます

船田 ^{こはる}心晴 (拓磨 ^{パパ}麗実 ^{ママ}) 東町

●おくやみ申し上げます

橋本 キミ 95歳 中央町
 中山 正 91歳 節婦町
 武藤 恵美 88歳 節婦町
 黒沼 茂 80歳 共栄
 白濱 孝広 72歳 大狩部
 粂山 鈴子 67歳 節婦町

☆広報に掲載してほしくない方は届出のとき、町民生活課住民係へお申し出ください。

●お問い合わせ先

町民生活課町民生活グループ住民係

☎ 0146・47・2112